平成28年度　能美市立辰口中学校　学校評価

重点目標（めざす姿）		具体的方策	主担当	【評価指標】<成果指標><努力指標><満足度指標>	【評価の根拠】達成度判断基準	取組状況（中間・学校教育懇談）8月	評価	取組状況（最終評価）1月	評価	学校関係者評価者による意見	今後の改善策
1	組織的な学校運営	主任等を中心として、同僚性・専門性を活かし、研修・協働する学校づくりをする。	教頭・教務	〈成果指標〉主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、組織的な学校づくりが行われている。	〈教職員アンケート〉経営ビジョンを理解し、連携を図り実践しているか。	主任を中心として、各分掌部会・学年会が組織的に連携し、機能している。	A	主任の機能化による縦、学年会の機能化による横の連携が組織的に実施できた。	A	きめ細やかに、様々なところに気を配って、組織的に精一杯やっていることに感謝します。	今後も、縦・横の連携を図り、組織的な学校づくりを行う。
		安全対策や危機管理の指導力を高め、いじめ・不登校などには組織的に迅速に対応する。	生徒指導	〈努力指標〉職員会議で情報交換を行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	〈教職員アンケート〉いじめ・不登校の生徒に適切に対応できたか。情報の共有化はできているか。	校長のリーダーシップのもと、報・連・相の徹底を図り、組織的に取り組んでいる。	A	避難訓練や校内研修で職員の共通理解を図ることができた。いじめ・不登校については組織的に対応することができた。	A		
2	知	全員の生徒が「わかる・できる」ように工夫・配慮された授業をめざす。授業のユニバーサルデザイン「焦点化・視覚化・共有化」を進める。	教務	〈努力指標〉3つの視点「焦点化・視覚化・共有化」を意識し、活力ある授業が行われている。	〈教職員アンケート〉「焦点化・視覚化・共有化」を考慮した、「わかる・できる」授業が実施できているか。	授業交流週間の結果から、3つの視点（特に共有化）を意識した授業の取り組みが行われている。	A	3つの視点を意識した授業の取り組みが充実した。特に、思考力を高める学び合い学習を意識し活用力を高める授業が実施できた。	A	家庭学習は毎日の積み重ねなので、少しの差でも最終的には大きな差になります。時間よりも質で評価できる工夫が必要です。例えば、学級の班の中で自学ノートを交流し、自分の目標を立てたり、自分を振り返ったりすることで、家庭学習の質を向上させていくのはどうでしょうか。 授業での、生徒の発言の声が小さいのが気になります。終礼でのスピーチなど、場数を踏んで、度胸をつけさせるのも1つの方法です。みんなの前で表現する力は、社会人として大切なことなので、積極的に取り組んでほしい。	主体的・対話的で深い学びの推進に努める。家庭学習は、家庭と連携しながら、学年の実態に応じた取り組みを行う。
		学び合いや活用力を育てる学習を充実させ思考力判断力表現力を育て、アクティブラーニングの研究を推進する。	教務	〈努力指標〉各教科で学期に1回アクティブラーニングの公開授業を行い、能動的・対話的な授業の研究を進める。	〈教職員アンケート〉アクティブ・ラーニングを積極的に推進しているか。	教科部会、授業交流週間の公開授業を中心にアクティブ・ラーニングの研究が進んでいる。	A	単元末を中心にアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を推進できた。授業スタイルチェックシートの活用により、教科の枠を越えて、お互いに学び合うことができた。	A		
		「授業の辰人スタイル」を身に付け、家庭学習や読書活動を充実させ、自ら学ぶ積極的な態度を育てる。	教務・研究	〈満足度指標〉学校は家庭と連携し、家庭学習や読書の習慣を涵養している。	〈保護者アンケート〉家庭学習や読書習慣、自ら学ぶ積極的な態度が身についたか。	家庭学習時間は短いが、昨年度よりは上昇している。時間の三点確保、家庭学習To do listなどを軸として、各学年の実態に応じた取り組みができている。	A	各学年の実態に応じた取り組みを実施した。評価問題や能美っ子漢字・計算テストなどの対策も家庭学習などとリンクさせて行うことができた。	A		
		学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と改善を重ね、基礎的知識・技能を定着させ、これらを活用する力をつける。	教務	〈努力指標〉学びのPDCAサイクルを構築し、基礎学力の定着、活用力の向上に努めている。	〈教職員アンケート〉PDCAサイクルを実施し、学力の検証ができているか。評価テストの通過率が向上しているか。	昨年度より、焦点化した分析・考察・手立てを行った。各教科・各学年で実践し、その成果の検証を行っていく。	A	評価問題の分析を通して、各教科で授業改善を行った。教科部会が中心となって行うと同時に、職員会議や校内研修会でも共通理解をはかった。	A		
3	徳	人間教育を学校教育の中心に据え、道徳教育においては、「アクティブ　モラル　ラーニング」を研究し、地域教材と人材の活用や家庭・地域との連携を深めて充実を図る。	研究	〈成果指標〉地域・保護者と連携し、「アクティブ　モラル　ラーニング」を通じ、道徳教育を推進している。	〈教職員アンケート〉道徳の時間は、将来の生活を豊かにしたり、社会に出たときに役立つと思うか。	全中道研究大会に向けて、「アクティブ　モラル ラーニング」の研究が進んでいる。	A	アクティブ・モラル・ラーニングの実践を通じて、発問や問い返し、グループワークの質などについて探求することができた。	A	全日中道徳大会は高く評価いたします。辰口中の良さを全国に発信できました。 生徒会主催のボランティア活動の参加率がすばらしく、辰口中のよき伝統が受け継がれています。さらに、トイレ掃除なども組み込んで、裾野の広がりを感じます。	考え、議論する道徳の推進に努める。本校の道徳教育の実践を発信する。
		授業や体験活動を通して、自己の能力や適性を自覚させ、自己実現できるキャリア教育の充実を図る。	研究	〈満足度指標〉自己の能力や適性を自覚させ、キャリア教育の充実を図っている。	〈保護者アンケート〉自分のよさを理解し、進路実現に向け充実した生活を送っているか。	生徒アンケートの結果から、自己肯定感、自己有用感の高い生徒が多い。何事にも前向きに取り組んでいる。	A	各学年の発達段階に応じて、キャリアの視点を取り入れた活動を、総合的な学習を中心に行うことができた。	A		
		生徒会活動やボランティア活動を通して、自治・自浄の能力を高め、開発的生徒指導に努める。	生徒指導	〈満足度指標〉生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、開発的生徒指導を行っている。	〈生徒アンケート〉生徒会活動やボランティア活動が活発で、学校生活が充実しているか。	手取川ボランティアには150名の生徒が参加した。清掃ボランティア、閖上ひまわりPJなど、積極的に取り組む生徒が多い。	A	ボランティア活動やあいさつ運動、雪かき等、生徒会が中心となって自発的に活動することができた。	A		
		自尊感情や自己存在感を高めるようにし、積極的に意見を述べ合い、認め合える親和的な学級をつくる。	生徒指導	〈努力指標〉学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	〈教職員アンケート〉Q－Uアンケート結果や生徒面談を活用し生徒理解を深め、親和的な学級づくりに努めているか。	Q－Uアンケートより、学級満足群の割合が多いことがわかる。生徒面談を活用し、生徒理解を深めている。生徒は、「いいね〇〇」の取り組み等により、お互いの良さを認め合うことができた。	A	各アンケートから学級に満足し、意欲的に授業に臨んでいることが伺える。運動会や文化祭などの行事でお互いの良さを十分に認め合うことができた。85%の生徒が「学校が好きだ」といっている。学級満足群の割合も多い。	A		
4	体	教科体育・部活動を中心に体力を高め、ねばり強くやり遂げる精神力を育てる。	保健美化	〈成果指標〉教科体育や部活動を通じ、体力の向上や粘り強く努力する心づくりに努めている。	〈教職員アンケート〉身体計測・スポーツテストの結果などから、体格、体力、粘り強く努力する心は向上しているか。	教科体育・部活動を中心に、体格・体力の向上に努めることができている。二学期の学校保健委員会では、体格・体力の向上についての取り組みを行う。	A	教科体育・部活動を中心に体格・体力の向上に努め、粘り強く努力する心を養うことができた。	A	不登校やいじめの件数をかくさずオープンにしているところがいいです。成長の過程として解決することを期待します。 部活動は、先生方のおかげです。技術指導も大切ですが、人間性を育てる視点で、バランスよく、これからもお願いします。	教育相談体制・特別支援体制を充実させ、当該生徒の合理的配慮を工夫する。 部活動では、保護者の理解のもと、生徒の健全な育成になるよう努める。
		「食育プロジェクト」を継続して取り組み、家庭や地域と連携し、生涯にわたる健康 と栄養意識を向上させる。	保健美化	〈満足度指標〉食育活動が浸透し、健康への関心が高まり、生活リズムが改善されている。	〈保護者アンケート〉学校は、健康への関心を高める活動に取り組んでいるか。	県給食献立コンクールへの全員参加と献立内容の質の高さから、食育の意識の高さがわかる。	A	学校保健委員会では「中学生と食事」をテーマにして取り組み、食育の意識が高まった。また、食前食後の挨拶の意味を知らせて、感謝して食事をする意識も高められた。	A		
		部活動は、各部の目標の下に、一人ひとりに目的意識を持たせ、逞しい身体と親和的な人間関係を構築できるよう、保護者と連携して充実に努める	生徒指導	〈満足度指標〉部活動は生徒の健全育成に役立っている。	〈生徒アンケート〉部活動は楽しく充実しているか。	部活動に関して、満足感・達成感の高い生徒が多い。悩みを持つ生徒には、顧問・担任・学年で連携し対応している。	A	3年生は達成感を持って部活動を引退している。また、2年生は新人戦を終えて心身共にたくましさを増してきている。目標を持って取り組む生徒が多くなった。悩みを持つ生徒には顧問と学年で連携して迅速に対応している。	A		
		生徒の不安や悩みを迅速に把握し解消できるように相談体制や居場所を充実させ、 困り感のある生徒には、合理的な配慮を工夫する。	生徒指導	〈満足度指標〉教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握し、問題の解消に努めている。	〈保護者アンケート〉学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	教育相談体制やふれあい教室との連携を通し、問題の解消に努めている。生徒アンケート・生徒面談により、悩みを持つ生徒の実態把握を行い、すぐに対応している。夏休みには、事例研修会を行った。	A	教育相談体制・特別支援体制を組み、困り感のある生徒への対応を充実させることができた。SCやSSWも有効に活用できた。	A		
5	家庭・地域との連携	ネットのルールを徹底し、食育を充実させ、団らんの機会をふやすよう推進する	生徒指導	〈満足度指標〉家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	〈保護者アンケート〉ネットトラブルやネット依存防止のために、家庭での話し合いやルール作りを行えたか。	ICTサポーターを活用したメディアリテラシー講習や月例集会等で、ルールや注意点を共有できた。	A	「9時以降、ゲームや電話、メール、ラインを使用しない」というルールを設けSNSとの付き合い方について共通理解を図ることができた。また時間の3点確保についての意識を高めることができた。	B	2年生の生徒アンケート結果の低さが気になる項目があります。2年生特有の曲がり角と受け止めて、家庭と連携していくことを望みます。	ネットトラブルやネット依存防止のための学習や講演会などを継続し、家庭との連携を図る。
		積極的に有効な情報提供に努め、「開かれた学校」をめざして、地域や保護者の声を大切にした信頼される学校づくりを推進する。	教頭・教務	〈満足度指標〉学校からの通信やホームページ、メール配信システムを適確に活用している。	〈保護者アンケート〉通信やホームページに目を通し、学校の情報を把握している。	HPの更新を月一回実施している。緊急メールで、大会結果などをタイムリーに伝えている。	A	ICTサポーターの支援のもと、HPの更新をおこなった。教頭による緊急メール配信も充実した。	A		